

会派名簿

会派とは、政治上の主義や政策を同じくする議員の集まりで、議会活動を行う上での基礎となります。

新政会

橋本 弘山 ④
濱中 俊男 ⑨
瀧島 愛夫 ⑩
船木 良教 ⑬

市民クラブ

川崎 明夫 ⑰

市民ネットワーク 「いきいき広場」

門間 淑子 ⑮

公明党

西川美佐保 ③
石居 尚郎 ⑧
露木 諒一 ⑭

羽村クラブ

中根 康雄 ⑫

羽村 21

水野 義裕 ⑪

日本共産党

鈴木 拓也 ①
市川 英子 ⑯
中原 雅之 ⑱

新しい風

小宮 國暉 ⑥

民主党

大塚あかね ②
馳平 耕三 ⑦

世論

山崎 陽一 ⑤

議席図

議長

山崎 陽一 ⑤	橋本 弘山 ④	西川美佐保 ③	大塚あかね ②	鈴木 拓也 ①
瀧島 愛夫 ⑩	濱中 俊男 ⑨	石居 尚郎 ⑧	馳平 耕三 ⑦	小宮 國暉 ⑥
門間 淑子 ⑮	露木 諒一 ⑭	船木 良教 ⑬	中根 康雄 ⑫	水野 義裕 ⑪
	中原 雅之 ⑱	川崎 明夫 ⑰	市川 英子 ⑯	

傍聴席

教育長 平成17年度、18年度で公文書の収集は、1千157件、資料の寄贈は75件で717点を受け、聞き取り調査も行っている。引き続き、関係資料などの収集・整理、調査研究を進めていきたい。

質問 有識者や市民にお願いし、市史編さん委員会をつくり、市民参加で準備を進めるべきでは。

教育長 市史編さんの具体的な準備を進める時期になれば検討する。当然、市民に何らかの形で参画をいただき、協働で進めていく考えである。

人の常勤医と1人の嘱託医体制となつてしまった。不安の声が寄せられている、市民への影響等について何う。

質問 報酬の低さが医者退職の原因になっていないか。

市長 都内の公立病院と比較し上位の水準にあると聞いている。

質問 医者の確保の見通しは。

市長 福生病院組合としても、医師の確保を最重要課題として、大学の医局やインターネット、民間の医師紹介会社等を活用し、全力で確保に努めていることである。

※番号は議席番号です。

行政視察レポート

経済委員会



向かって左から

山崎陽一 〇橋本弘山 川崎明夫
市川英子 〇濱中俊男 露木諒一

(詳しくは15ページをご覧ください。)

視察テーマ

観光、商工業及び農業の振興

視察日 平成19年10月2日～4日

視察内容・視察先

■長野市の中心市街地活性化から学ぶ (長野県長野市)

■人口1万2千人の町に120万人の観光客がやってくる (長野県小布施町)

■自立をめざす村 (長野県栄村)

厚生委員会



向かって左から

鈴木拓也 水野義裕 〇馳平耕三
船木良教 〇小宮國暉 西川美佐保

視察テーマ

障害福祉、高齢福祉
及び環境施策

視察内容・視察先

視察日 平成19年10月2日～4日

知的障害児支援の取り組み (滋賀県立近江学園)

■認知症啓発推進事業 (滋賀県東近江市)

■環境学習 (兵庫県西宮市)

(詳しくは16ページをご覧ください。)

私たち市議会議員は、特徴ある施策を実施してすぐれた成果をあげている自治体を視察し、今後の羽村市の行政運営に反映するため、調査・研究を行っています。

平成19年度に実施した視察については、昨年12月に行政視察報告会

を開催し、多くの市民の皆さんにその成果を発表しました。

視察は経済・厚生・総務の各常任委員会ごとに行いました。その概要をお知らせします。

総務委員会



向かって左から

中原雅之 大塚あかね 〇門間淑子
〇中根康雄 瀧島愛夫 石居尚郎

(詳しくは17ページをご覧ください。)

視察テーマ

市民生活の安全、市政
及び学校教育

視察日 平成19年10月10日～12日

視察内容・視察先

■栗山町議会基本条例(北海道栗山町)

■航空自衛隊千歳基地(北海道千歳市)

■食物アレルギーに対応した学校給食センター(北海道厚真町)

◎は委員長、〇は副委員長

経済委員会の報告

■長野県長野市 長野市の中心市街地活性化から学ぶ

長野市は、善光寺の門前町として栄えましたが、98年冬季五輪の道路整備で観光客は素通り、市民も郊外の大形店を利用するためまちが空洞化。解決に取り組んだのが、国の商店街活性化支援の基本方針に沿ったTMO（まちづくり管理会社）「株まちづくり長野」です。費用対効果を追求めた事業を進めています。「ぽていお大門」整備は、使われず残る大正期の商家や蔵を5億4千万円で修復。国、市、T

MOが3分の1ずつ負担、美しい白壁がよみがえり、20店舗が入居する楽しい空間です。「リプロ表参道」は、ビルオーナーの依頼を受け、地元出版社が信州大学の学生を巻き込んで再生。1階は県内のパン工房20カ所から毎日届くパンを置いたカフェテリア、5階は学生アパートの生活感あるビルになりました。

人が300m歩く時間は約5分。この位の間隔で集客拠点や休息の場があると楽しく歩けます。善光寺参道に新たな施設が整備されたことで人通りが戻りつつあるといいます。

「にぎわいをつくる300mの法則」の手法は、羽村市役所通りを繁栄のラインにする参考にもなります。ポケットパークやベンチを置くことでも実現できるのではないのでしょうか。



＜修復前＞



＜修復後＞

▲修復された古い蔵

■長野県小布施町 人口1万2千人の町に120万人の観光客がやってくる

とりたてた観光資源もなく、都会への人口流出に悩んでいた小布施町が、郷土の歴史や産業に価値を見いだし、事業所、市民が一体



▲にぎわう小布施の町並み

となり、町に滞在し多くの肉筆画を残した葛飾北斎の記念館を開設。また、栗菓子老舗の「小さな栗の木美術館」「日本のあかり博物館」など、

現在、町には17の美術館や博物館が揃い、格調ある町のイメージを定着させました。

「北斎館」一帯は「町並み修景事業」で町屋や酒蔵が修復され、栗などの地元食材を使ったレストランが人気です。「小布施セッション」は著名人を招いたトークセッション

で、町民と各地から来た人との交流の場。「小布施見マラソン」には5千人が参加します。こうした結果、潤いを求めて人口の10倍の観光客が訪れ、経済効果は約30億円。「外はみんなのもの。内は自分

のもの」というまちづくりの「結果観光」だといいます。

まちづくりに欠かせないのは高い理想を持つリーダーと、アイデアです。観光資源の少ない羽村でも自然や歴史的環境を見直し、魅力を再発見することから始めたらどうでしょうか。

■長野県栄村 自立をめざす村

長野県の最北端に位置するこの村は、日本でも有数の豪雪地帯です。この厳しい自然環境の中で、栄村は数々の独自の施策を進めています。国の補助金に頼らず、資材供給のみの「道直し」や、農民の負担軽減を考慮した「柵田圃場整備」工事を村人との話し合いで行っています。

また、地域循環型の経済システムを進め、村内の観光、宿泊施設内での村内消費率は70%、除雪他村内雇用率は100%に及んでいます。

ます。介護制度についても「下駄履きヘルパー制度」を導入しました。資格取得費用を村が負担し、現在113人の村民が登録しています。介護のみならず、除雪もこなしながら常に高齢者の暮らしを見守っています。また、都市と村との滞在型交流も盛んです。

行政と村民が「協働」により暮らしやすさの追求をしています。村民が誇りを持ち、身の丈に合った村づくりが成功しました。



▲「道直し」の様子

厚生委員会の報告

■滋賀県立近江学園

知的障害児支援の取り組み

「障害者自立支援法」の施行や「特別支援教育」のスタートに伴い、障害児教育を取り巻く環境が変化の中で、日本の障害児教育のさがげとなった近江学園を視察しました。今後の羽村市の施策の充実に生かすことが目的です。

近江学園の前田校長から、近江学園の設立者であり、福祉の父ともいわれる糸賀一雄氏の思想や、近江学園の現状を説明し



▲海外でも注目された窯業作品

ていただき、各施設を視察しました。

「障害者と健常者が区別なく暮らせる社会」を目指し、「この子らを世の光に」という理念の下、一人ひとりの子どもに応じた教育・支援が行われています。具体的には、障害を持つ子どもたちが、集団生活を通じて、家庭や社会で生きる力を身につけ、ともに学び生産活動を支援する仕組みが整えられ、地域の皆さんとともに、子ども一人ひとりに応じた教育・支援が実践されています。

子どもの個性に応じた教育条件を整備し、「特別支援教育」の一層の充実を図ること、児童虐待への対応、ひとり親家庭や障害のある子どもを持つ家庭については子どもと家庭双方への地域ぐるみのさらなる支援が重要であることを再認識しました。

■滋賀県東近江市 認知症啓発推進事業

社会問題化している認知症について、市民への啓発事業の先進地



▲徘徊高齢者保護訓練を伝える新聞記事

である東近江市の取り組み事例を視察し、羽村市の取り組みを考えました。

東近江市では、認知症は年のせいではなく、いろいろな原因で脳の働きが悪くなっている状態。病気で、早期発見・早期対応が大切だという観点からさまざまな啓発事業が行われていました。認知症になっても安心して暮らせるまちを目標に、市と医師会、地域が連携した安心三重ネットワークの地域づくりが進められていました。

認知症キャラバンメイトの数は、3年で約10倍に増えており、また、サポーター養成講座を実施し、サポーター数も1年で1千500人を超える人数で増えていました。

また、徘徊高齢者の保護訓練を実施したり、医師会と連携した認知症相談窓口の設置など、地域で認知症になった人を支える仕組みづくりが定着していました。

こうした取り組みは羽村市でも認知症啓発事業の参考になると感じました。

■兵庫県西宮市 環境学習

いち早く環境学習都市宣言をし、持続可能な都市を目指して環境学習サポートセンターを設置した西宮市の取り組みを羽村市に生かすため視察しました。

西宮市では、環境問題の基本は人と人との関係性にあると考え、「エコカード」を介して地域・社会の中で子ども達をほめて育て、励ましの言葉をかけることを進めています。こうした行動は、大人にとっても自らを振り返ることとな

り、相互共育が環境倫理を高めると考えています。

そこで、子どもから大人まで、行政・事業者・地域を巻き込んだ環境学習システムに基づいた活動を積極的に展開していました。

活動のサポートはNPO法人が担い、効率的に推進しており、こうした取り組みは羽村市にとっても参考になるのではないかと視察を通じて感じました。



▲環境学習サポートセンターの様子